

## JOMF 派遣医師便り (2014. 7)

### ◆シンガポール◆

## デング熱ワクチンついに実現へ

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

デング熱は、20 世紀後半から世界中の熱帯地帯で流行が続いています。統計により差がありますが、患者数は世界で年に 2.5 億人（5 千万から 1 億とする資料も多い）、死亡者数は、21,000 人以上とのことです。

未だに治療法はなく、今までは予防方法もデングウイルスを媒介する蚊を発生させないように努力することしかありませんでした。

シンガポールでは 20 世紀の終わり頃、年に 4000 人ほどいた患者数が西暦 2000 年には 500 人ぐらいにまで減っていたのですが、その後、急増し、2005 年には 14000 人を越えたことから、国を挙げての蚊の撲滅対策が採られました。その効果もあり、2006 年には 3000 人程度まで患者数は減りましたが、その後増減を繰り返し、昨年 2013 年は過去最多となり、22000 人を超えました。蚊の撲滅策だけではデングは封じ込められないという現実に直面せざるを得ませんでした。そして、今年も昨年に迫る勢いで患者さんが発生しています。

そんな中、7 月 12 日のストレートタイムス（シンガポールの有力紙）に因れば、フランスの製薬会社サノフィが世界に先駆けて、デング熱のワクチンの開発に成功し来年から市場に出せるという発表をしたとのことです。デングには 4 つの型があり、1 つにかかると 2 番目はむしろ、重症化する可能性が高まるということで、4 つの型に同時に効くワクチンが必要となっていました。今回開発されたワクチンは 4 つのウイルス型のうち、Den-3, Den-4 には 75%の有効率があるようですが、Den-1 には 50%、Den-2 には 35%とのことのようにです。シンガポールでは Den-1、Den-2 が主に流行する型なので、この点は少し残念なところ です。

14 歳以下の子どもたちを対象にしたインドネシア、マレーシア、フィリピンで行なわれた調査によれば、既に抗体がある子どもたちへのブースター効果が大変優れていることがわかりました。

成人が患者の多くを占めるシンガポールでこのワクチンの効果がどれほどかはわかりませんが、ブースター効果が強いということは、当地にとっては朗報です。それは、シンガポールでは国民の 45%が 45 歳までにデング熱の少なくとも一つの抗体が陽性になるので、多くの人々がブースター効果を期待できることになるからです。

また、上記の調査でも年長の子どものほど効果が高かったことも成人へのより強い効果を期待させるものとのことです。

また、今回のワクチンがデング熱の重症化を抑える効果が80%と計算されていることも、大変頼もしいことです。

問題は費用対効果がどれくらいになるかということのようです。

今後の展開を見守りたいと思います。